

よしぶみのいわれを訪ねて

千葉県香取市立小見川南小学校 鈴木 聖巳

1. 実施学年および教科・領域

小学校第5学年～第6学年 総合的な学習の時間

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 主題名 もう1つの教室としての歴博活用「南地区歴史たんけんブック作り」

(2) ねらい

子どもたちが自分たちの住む地域を深く知ることで、自分たちの郷土を見つめ直し、郷土に対して親しみと誇りをもつ心を育てる。

博物館を今まで以上に身近なものに感じ、生涯にわたり親しみながら活用していくための素地を育てる。

(3) 博物館との関連

- ・子どもたちが調べ学習を進めるに当たり、どのような資料を見ていけばよいのか、あるいはどのような調べ方をしていったらよいのか、そのためのヒントやアドバイスを博物館職員に依頼する。
- ・見学の際、展示物の見方などについて館職員に解説を依頼する。また、見学のガイダンスや学習のまとめをするために部屋を借りる。
- ・調べ学習の資料に、博物館所蔵の図書などを利用する。
- ・子どもたちが調べた内容について、誤りがないか博物館職員に確認をしてもらう。

3. 指導計画 1年目 (53時間扱い)

過程	時間	○学習活動 ●活動内容 ・児童の現れ	指導上の留意点
導入	5	○よしぶみてなんだろう？ パート1 ●普段何気なく口に出している「よしぶみ」（平良文）だが、なぜ業間活動の時間や学校便りや文集にその名が使われているのか、知っていることを話し合う。 ●自分たちの住む地域について知っていることを話し合う。 ●地域について不思議に思うことを整理する。	
準備	5	○博物館見学を通し、展示の見方や博物館の利用の仕方を学ぶ。 ●博物館とはどのような所か知るために、どんなこ	博物館見学の前に博物館に対する知識を確認し、見学

		<p>とを調べたいか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館には何があるのだろうか。 ・博物館はどのように見ていったらいいのだろうか。 ・博物館で何がわかるのかな。 ・博物館の裏側はどうなっているのかな。 ・展示室にはストーリーがあるのかな。それはどんなストーリーになっているのかな。 	<p>の視点を指導する。</p>
展 開	43	<p>○よしぶみってなんだろう？ パート2</p> <p>「地域の歴史がわかるような本を作ろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調べた物をどのようにまとめるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞にして発行する。 ・模造紙に、テーマごとにまとめて、発表する。 ・小冊子にして図書室に保管し、全校児童に読んでもらえるようにする。 ●各自でテーマを決め調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・図書室や図書館で本を借りたり、家族や近所の方から話を聞いたりして調べる。 ・平良文についてインターネットで調べる。 ・地域にある歴史的な場所や建物を訪ねて、そのいわれや歴史的背景を調べる。また、可能であれば写真を撮ってくる。 <p>○まほろばの里案内所で詳しいことを聞いたり、歴博職員から、資料の集め方や調べ方についてアドバイスをえながら、調べ学習を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●質問事項を整理しておき、案内所の方や歴博職員から話を聞く。 ●調べた内容を整理し、原稿の下書きをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・不正確な事柄や偏った解釈で書かれていないか、書かれている内容に矛盾がないか、何度も読み直す。 ・下書きをよく見直し、必要な事柄が書かれているか、無駄な事柄や重複したところがないか確かめ 	<p>まほろばの里案内所の担当の方や歴博職員に、事前に見学時の解説を依頼する。</p> <p>下書きした原稿をよく見直した上で、子どもたちの認識や解釈、記述に誤りがないか歴博職員に、確認を依頼す</p>

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原稿をまとめ「南地区歴史たんけんブック」として製本する。 ・出来上がった原稿からパソコンに入力し、見出しとページ番号をつけて保存する。 ・項目ごとに入力された原稿を、順序よく1つのファイルにまとめ、ページの確認をして、目次を作成する。 ・表紙のデザインと用紙を決める。 ・印刷し製本する。 	<p>る。</p> <p>画像や写真をできるだけ多く入れる。</p>
--	--	---	------------------------------------

2年目 (14時間扱い)

過程	時間	○学習活動 ●活動内容 ・児童の現れ	指導上の留意点
導入	2	<p>○今後の方針を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出来上がった「南地区歴史たんけんブック」をどのように紹介するか話し合う。 ・集会を開き、全校児童に「南地区歴史たんけんブック」を紹介し、地域の歴史について関心を深めてもらう。 ・校内だけでなく地域の方にも見てもらい、感想や意見がもらえるように、まほろばの里案内所でも展示する。 	<p>出来上がった後修正しながら内容を充実させていくことを理解させる。</p>
展開	10	<p>○展示会の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これまでの学習の記録や「南地区歴史たんけんブック」では紹介しきれなかった事柄も含め、新たな資料を作成する。 ・どのような掲示物が必要か、また自分たちの思いを伝えるには、どのように表現したらよいか内容や書き方、色使いなどを工夫する。 ●年表や地域図等の掲示物や参考文献の配置を考えながら展示場作りをする。 ・見学者が見やすい配置を考え、相談しながら作業 	<p>学習の結果だけではなく、これまで学習の過程が大事であることを理解させる。</p>

		を進める。	
ま と め	2	○展示会をおこなう。 ●全校集会を開き、全校児童に紹介する。 ・テーマごとに自分の調べた事柄や苦労した点、感想などを発表し、その後自由に見学してもらう。 ●まほろばの里案内所に資料を運び、展示をする。	見学者からの感想などを通し、自分が育った地域に対する関心を深めさせていく。

4. 実践の概要

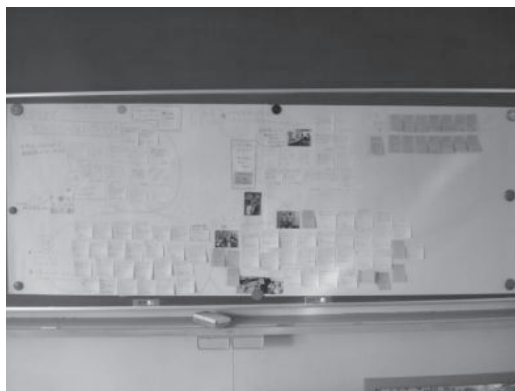
この学習は子どもたちの素朴な疑問である、「よしぶみってなんだろう」というところから始まったものである。

本校では、業間休みの時間を「よしぶみタイム」と名付けている。また、学校便りや全校文集のタイトルは「よしぶみ」である。学校を取り巻く地域一体を良文地区と呼び、千葉県指定の重要文化財である香炉型顔面付き土器は、学区内にある良文貝塚より出土したものである。

普段から慣れ親しんでいる「よしぶみ」という名だが、平将門の叔父にあたる平良文に由来している。しかし、実際のところその名前の由来を詳しく説明したものが本校には見当たらない。さらには、ある児童から「自分の家では昔からかんぴょうを食べない」という話があり、その児童が住んでいる地区では同じようにかんぴょうを食べない家は何軒もあることもわかった。これが「良文」とどのような関わりがあるのか、ということも好奇心を抱かせる。

また、もう一つの疑問は貝塚地区がある所である。海拔 35 メートルほどの高台にありながら、貝塚や龍宮伝説に関わりのある豊玉姫神社があるのも不思議である。それがこの学習を始めたきっかけとなった。

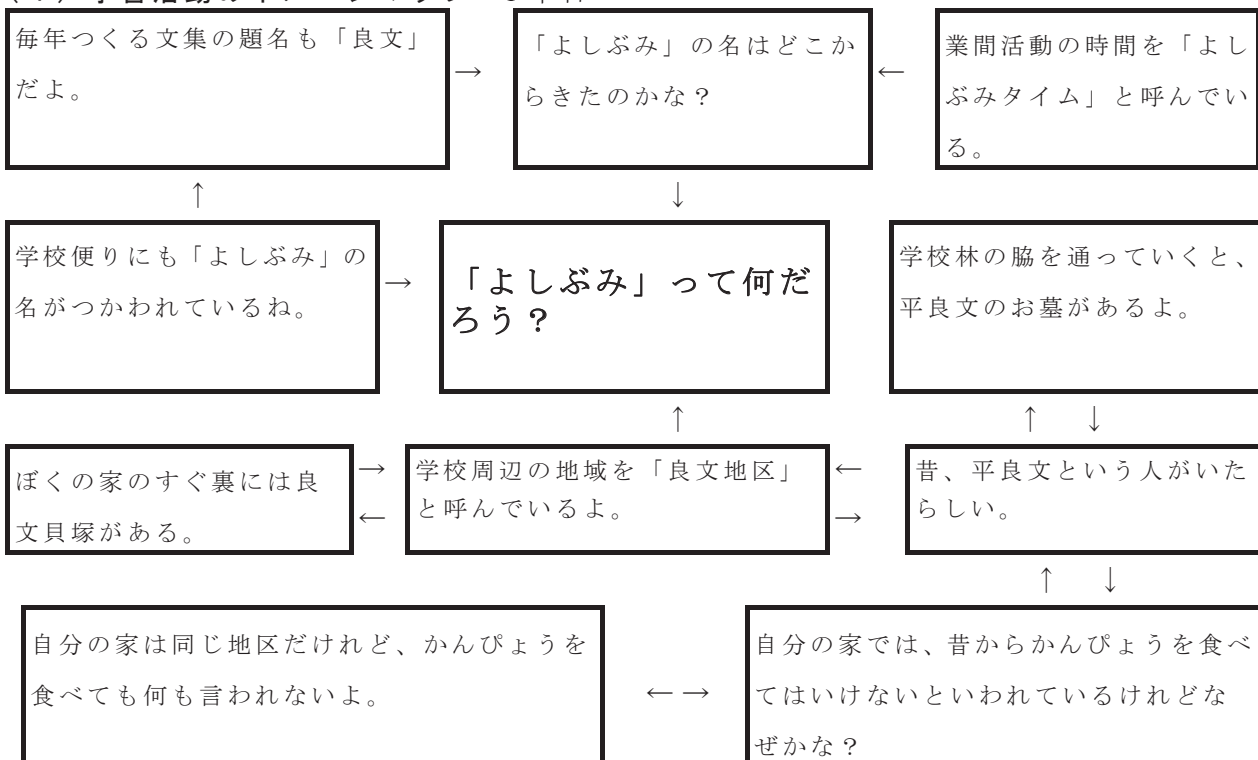
子どもたちから出てきた疑問や家族から聞かされてきた話、通学路で見かける史跡等の表示や案内板、家の庭を掘った時に出てきた化石等々、子どもたちが思いつくままに書き出し、それらを貼り出して整理した。



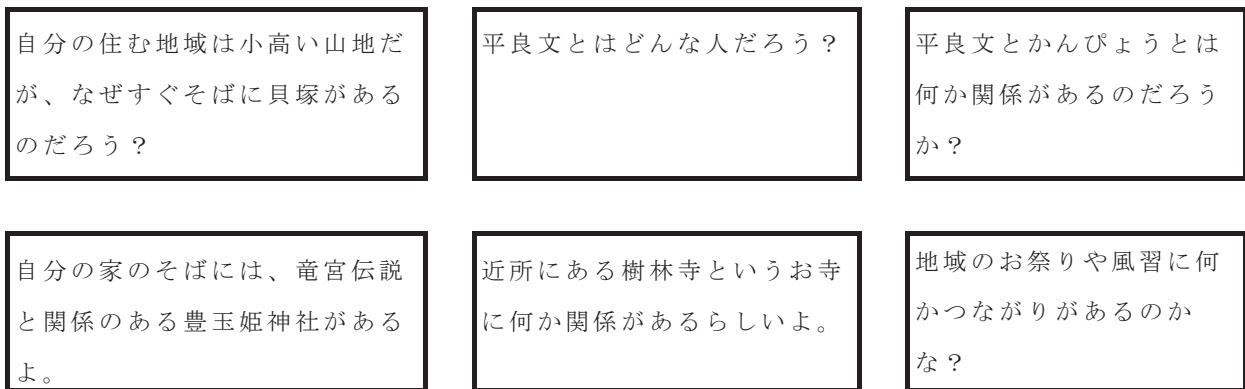
子どもたちから出た疑問などを付箋に書いて貼りだした。

これらの子どもたちの疑問や思いを整理したものが、以下に示すイメージマップである。

(1) 学習活動のイメージマップ 1年目



自分たちの住む地域をもっと知ろう！



よし！南地区歴史たんけんブックを作ろう。

(2) 博学連携 1

まず、7月に1回目の歴博見学をおこなった。ここでは歴史そのものよりも博物館の歩

き方、展示資料の見方を中心に学習することとした。

子どもたちは「博物館を探検しよう」をテーマとし、

①博物館はどんなところだろう。

②博物館の中ではどんな仕事をしているのだろう。

の2点について館の方から説明を受けながら見学をすすめて行った。



資料の見方や展示室での説明を熱心に聞きながら見学する子どもたち

(3) 博学連携 2

次にまほろばの里案内所に以下のような質問文を添えて、見学と説明のお願いをした。

1 良文のいわれについて

① 昔、この辺り一帯を良文村といったそうですが、村の大きさはどれくらいだったのでしょうか。(どこからどこまでですか)

② 良文村の人口は何人ぐらいでしたか。

③ 昔の人はどのような生活をしていたのですか。

2 平良文について

① 平良文とはどんな人ですか。

・いつ頃の人ですか。

・どんなことをし、どんな活躍をしたのですか。

・平家の何代目になるのですか。

② 平良文はこの地域以外でも知られているのですか。

③ この南地区には平姓はないように思いますが、どこへ行ってしまったのですか。

3 貝塚について

① 良文貝塚には、どれくらいの貝の種類がありますか。

② 貝塚からは、貝以外にも何か出てきたのでしょうか。

4 豊玉姫神社について

① 豊玉姫神社の御神輿のてっぺんについている飾りは鳥のように見えますが、それは何ですか。また、なぜ、そのようなものがついているのですか。

② 豊玉姫は何の神様ですか。

③ 豊玉姫はどこに奉られているのですか。

④ 豊玉姫は竜宮城の姫と聞きましたが、どうして貝塚地区に奉られているのですか。

⑤ 神幸祭はなぜ20年に1度しかおこなわれないのでしょうか。また、なぜ銚子まで行くのですか。

⑥ 前回の神幸祭りでは、3つの御神輿が銚子まで行ったようですが、その3つの御神



まほろばの里案内所にて

興のそれぞれの関係はどういうものですか。

5 地域の風習について（五郷内）

① なぜ、五郷内ではかんぴょうを食べてはいけないのですか。

※インターネットで調べたら、貝塚地区の人が食べないとありましたが、実際には五郷内の人だけのようです。貝塚の人たちは普段から食べているそうです。

② 樹林寺にある夕顔観音とはどういうものですか。また、夕顔観音根本霊場とは何ですか。



まほろばの里案内所では、子どもたちの質問に対し一つ一つ丁寧に答えてくださった。

子どもたちにとっては専門的すぎて少々理解しにくい部分もあったようだが、それでも真剣に話を聞きながらメモをとることができた。そして、ここでの話をもとにして、さらに調べる範囲を広げることができた。

まほろばの里案内所見学後も、香取市立小見川図書

真剣に話を聞く子どもたち 館や香取市立佐原中央図書館などから図書を借りたり、インターネットで調べたりしながら資料を集めていった。

（4）博学連携 3

2回目の歴博見学は12月におこなった。

調べ学習の方法や整理の仕方、まとめ方などを学ぶことに重点をおき、地域のことを調べるためにはどのような資料を集めたらよいか。集めた資料をどのように整理し読み解いていくのか、歴博においてある図書資料などにそのヒントはないか、などについて多くのアドバイスをもらった。

見学後は集めた資料を整理しながら原稿をまとめ、「南地区たんけんブック」作りに専念していった。

（5）博学連携 4

年度末に「南地区たんけんブック」が完成し、いったんこの学習を終えたが、新年度になってから、博学連携研究員会議の中で「学習成果の発表を作品紹介で終わるのではなく、これまでの学習のプロセスを交えた展示会としてはどうか」との提案をいただき、子どもたちに伝えると、みな賛成してくれたので改めて学習を開始することにした。

学習のプロセスを年表形式にまとめたり、学区の地図を描いたり、同じ地区内であってもかんぴょうを食べない家と食べる家のアンケートをとって地図上に表したりして展示用の資料を作っていた。

限られた時間の中ではあったが、佐藤優香助教より展示の仕方のアドバイスをもらいながら校内とまほろばの里案内所での展示をすることができた。またまほろばの里案内所では当初は1週間の展示の予定だったが、好評のため年度末までの展示を逆に依頼された。

校内での展示会の様子



年表の前で「南地区歴史たんけんブック」の紹介



学区の絵地図及びかんぴょうマップ
「かんぴょうを食べる家と
食べない家を示した地図」の紹介

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・子どもたちは、これまでの学習を通し、自分たちの住む地域に対して深く愛着をもつとともに、歴史的な背景にも大きな関心をもつようになった。
- ・博物館の見学を通して、展示された物や展示の仕方にもそれぞれ意味があり、展示に携わった人々の思いが深く関わっていることを知ることができた。その結果、自分なりの課題意識をもって見学に臨むようになり、パネルなどの解説を丁寧に読むなど、一つの展示物を時間をかけて観察するようになった。
- ・「南地区歴史たんけんブック」の作成を通し、資料の集め方や集めた資料のまとめ方を知ることができた。
- ・博物館を身近なものに感じるとともに、これからも歴博を活用したいという意欲が高まった。

児童の作文①

南地区について調べようと思ったのは5年生の総合の授業の時でした。「自分たちの住んでいる地区についてしらべよう。」という勉強で、僕は自分の家の近くにある貝塚について調べようと思いました。いつも見ているものなので、すぐに調べ終わると思っていたのですが、歴博に行ったときに太田さんに見せてもらった資料に、貝塚とは何なのか、どういう条件でできるのかなど細かく書いてあり、自分だけでは見つからなさそうなことまで書いてあったので、歴博の太田さんやみなさんにはとても感謝しています。まとめるときも歴博のパンフレットなどを参考にさせてもらい、読む人が読みやすいように作りました。

きっとこの2年で経験したことはとても大変だったけれども、それ以上に自分のためになったのだと思います。

児童の作文②

私は、5年生の時から総合の学習で南地区の歴史を調べました。

歴史民俗博物館で資料の調べ方を教えてもらいました。太田さんに、資料には本当のこととは違うことが書いてあるかもしれないと教えてもらいました。少しショックを受けま

したが、とても勉強になりました。そのおかげで、たくさんの資料を見て、読んで、その調べたことを「南地区歴史たんけんブック」という一冊の本にまとめることができました。

今までは、自分たちの住んでいる南地区のことについてあまり知りませんでした。でもこの学習を通して深く知ることができました。だから南地区のことが大好きになりました。

(2) 課題

1年目は順調に進めることができたが、年度が替わったときに担任も変わったため、2年目の実践は校長、学級担任及び保護者からも同意と協力を得ることが必要であった。幸いにして、だれもが非常に協力的であったため、無事に学習を進めることができた。しかし、自分の受け持ち学級ではないため、学習時間の確保が難しく、展示資料の作成は保護者の承諾を得て夏休みにおこなうことにした。

この学習は総合的な学習の時間の中でおこなってきたため、このような展開も可能であった。しかし、子どもたちの欲求に対してどのように意義付けをし、どのように学習計画を立てていくのが望ましいのか、また、教科との関連や年間指導計画の位置づけを考慮する必要がある。2年間継続して学習をおこなう場合、担任が替わったときの学習内容の引き継ぎなどが課題として残った。

6. 私の考える歴博活用案

中・高学年	総合	主題 古地図を手に地域探検をしよう。	6単位時間扱い
-------	----	--------------------	---------

(1) 学習のねらい

- ① 古地図と現在の地図とを見比べながら学区を歩くことで、毎日通っている道やあたりの風景を改めて見つめなおし、地域への関心を高め愛着を持たせる。
- ② 古地図に描かれているものが、現在ではどのようになっているのかを、実際に道を歩きながら確かめることで、暮らしの変化を体で感じるとともに、今も自分たちの暮らしに関わっているものがあるか探し出し、その意味を考え、それぞれの事柄に対する理解を深める。

(2) 使用資料

学区の古地図（今回は地域の方から提供された江戸時代の古地図）

古地図と同じ地域を示した地図（最新の動態図あるいは詳細図）

市の観光課や地域の商店街などで作っているイラストマップ（手に入れば）

その他関連図書・画像など

(3) 展開 15時間扱い（歴博見学を含む）

過程	時間	○学習活動 ●活動内容	指導上の留意点
導入	1	○古地図を見てみよう。 ●古地図と現在の地図とを見比べながら、その違いを見つける。	古地図というものを初めて手にするため、古地図がどの向きで描かれて

			いるか、どのようなものについて詳しく描かれているか、に注目させる。
展 開	12	<p>○地域探検をしよう。</p> <p>●古地図を手に、地域探検に出かける。</p> <p>●古地図に描かれている道が現在も使われているか、また昔と同じものが今もあるか確かめる。</p> <p>●地域に伝わる言い伝えと関わりのある場所などが描かれているか確かめる。</p> <p>○歴博見学に行こう。</p> <p>●歴博見学を通し、地域探検で疑問に思ったことを調べる。</p> <p>○展示会の準備をしよう。</p> <p>●地域探検や歴博見学でわかったことを整理し、展示資料を作成する。</p>	<p>気づいたり、見つけたりした事柄をメモにとり、教室に帰ってから整理できるように指導する。</p> <p>調べてもわからないことは、歴博見学の時に質問できるようにノートにまとめさせる。</p> <p>調べた事柄を整理するための場所を利用できないか事前に連絡する。</p> <p>自分なりの地域に対する思いや、探検を通して感じた驚きなどが伝わる展示資料になるように支援する。</p>
ま と め	2	<p>○まとめをしよう。</p> <p>●古地図と現在の地図、探検してわかったことや発見したことなどを並べて展示し、全校児童に紹介する。</p>	<p>一番伝えたいことは何か、よく吟味させる。</p>